

博物館だより



No.167

令和2年10月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館「おススメ逸品レポート」
この展示（&収蔵資料）
「コトが見える、コトがツボ!!」

「コト」であつてもなくても博物館の魅力は収蔵資料が持つ多彩な価値と情報です。当館には町の豊かな歴史と文化が育んだ沢山の「逸品」資料があり、以下にその一部をご紹介します。



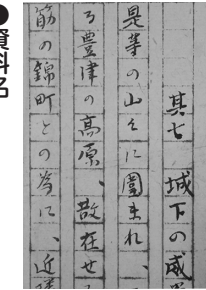
▲資料全景 著作や揮毫を中心に書簡や日記・写真等塚の足跡が知られる 写真は全体の一部

●資料解説&メモ

右の品々は、町出身で「日本社会主義運動の父」と称された思想家・社会運動家の堺利彦（一八七〇～一九三三）ゆかりの資料群です。

堺利彦は旧制豊津中（現育徳館中学・高校）を首席で卒業し、エリートコースを進むもやがてリタイア、様々な職を経るうち文筆業で名を馳せ、当時最大のメディア「万朝報」の看板記者となります。

万朝報で日露戦争への非戦を論じて退社したことを機に「反戦論を果敢に展開する一方、共産党宣言の翻訳など、得意の分りやすい文章にユーモアを交えて、社会主義の普及発展に努めました。



▲右：堺利彦肖像（最晩年／昭和4〔1929〕年ころ）
左：文筆家としての出世作・随筆「望郷台」（部分）

●資料名

堺利彦資料 塚山鶴田顕彰会寄託

●データファイル

- 法量等：著書・揮毫等約五〇〇点
- 制作年代：明治・昭和19～20世紀
- ポイント：獄中書簡は我が国初期社会主義研究の二級史料とされる

●公開状況

一部を常設展示で公開
堺の運動は革命をめざしながらも急進・過激に走るものではなく、自らを「捨石埋草」として粘り強く訴えかけるものでした。その姿勢は今なお多くの研究者やファンを魅了してやまず、今年生誕一五〇年を迎えます。



▲堺利彦が愛した故郷・豊津を一望する八景山に移築された顕彰碑（みやこ町国作）

◆講座・教養催し物ガイド 10月の歴史講座（※仮予定）

- 【漢詩紀行講座】
10月3日（土） 9時30分～
 - 【古文書講座】
10月10日（土） 10時～
 - 【古典かな講座】
10月17日（土） 9時30分～
 - 【みやこ学講座】
10月24日（土） 10時～
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止対応に伴い日程等変更となる場合があります。
- ※見学会等は別途ご案内します。

開催中止等決定イベントについて

博物館や文化係が所管・支援する文化事業のうち、新型コロナウイルス感染拡大防止対応に伴い、開催の中止等が決定したイベントが追加されています。9月末時点における該当事業は左記のとおりとなりますのでご参考下さい。

なお、このほかに対応が確定したものが発生した場合、町や館の広報・HP等で順次お知らせするよう致しますのでご了承下さい。また詳細については不明の点等ございました場合は博物館（0930-4666）までお問合せ下さい。

①産業祭記念発表会文化協会事業

11月21・22日開催予定を中止

②秋のバスハイク（博物館友の会事業）

11月23日開催予定を中止

③京築ふるさと文化祭（豊民文化祭事業）

11月28・29日開催予定を中止



7・8月の業務日誌から

8月1日（土）、町内豊津の松田勝弘さんから寄贈を受けた昆虫標本資料の一部を、ホールでミニ展示として公開しました（9月末まで）。
わずか15箱でしたが、自然の美に魅入られる方が大勢いらっしゃいました。

7月30日～31日、小山田宏一奈良大学教授が古代日本と韓国の溜池の関連性について勝山池田にある「古代のダム」池田遺跡を調査しました。調査の結果、韓国の溜池築造技術との類似点を確認することができ、改めてこの遺跡の重要性が指摘されました。



▲「古代のダム」の推定貯水範囲の調査。新たな発見がありました



▲モルフォチョウやハラクスオオカブに注目が集まりました

みやこの歴史発見伝 130
令和とその時代 11

— みやこのダム物語② —

「ダム」と「竜（龍）」

伊良原ダムのほとりに設置されている竜（龍）のモニュメントは、町内外からダムの見学に訪れた人々の記念写真の撮影スポットとして注目を集めています。ハート形に躍動する竜の像も、ダムを背にすれば、一転して神秘的な雰囲気漂う一枚を撮影することができ

ます。このように「ダムと龍」という、あまり意識されることがない一風景の起源を辿ってみると、意外にも令和の歌が詠まれた奈良時代まで遡ることができま



伊良原ダムにある竜（龍）のモニュメント

えられてきた奈良時代のみやこの歴史認識を一変させる発見がありましたのでご紹介いたします。

「龍」の起源

大きな池や湖に巨大生物が潜む伝説は世界各地にみることができ、特に日本では「龍」の伝説が多くみられ、町内では勝山に伝わる「胸の観音」の物語が知られています。

龍は古来より霊的なイメージが強く、四神（青龍・白虎・朱雀・玄武）の一つに含まれています。また古代中国の書物である『管子』には「龍は水から生ず。」という記載がみられるなど、龍は古くから水との関連が深い伝説の生物と考えられていたことが伺えます。この思想から発展し「ダム」と「龍」が結びついた事例が、韓国の全羅北道金堤市にある碧骨堤という4世紀頃に築かれた池にみることができま

す。碧骨堤は取水口及び堤が発掘調査され、堤から敷粗梁が検出されるなど、池田遺跡との共通点がみられる海外の遺跡として注目されています。この碧骨堤には龍神伝説が伝えられており、毎年十月に行なわれる「地平線祭」では巨大な龍の像が設置され、ダムと龍が結びついた伝説の名残をみることができま



碧骨堤の大祭にみられる巨大な竹製の双龍 (写真提供：工業善通氏)

「韓人」が築いた池

先月号で紹介しました大阪府の狭山池は、「日本書紀」や「古事記」にも登場する「日本最古のダム式溜池」として広く知られています。この池に隣接する博物館は、町内の伊良原学園校舎の設計で知られる安藤忠雄氏の設計によるものです。館内には狭山池で検出された木樋などが展示され、古代から現代までの池の歴史を詳しく学ぶことができます。この博物館の館長を務め、稲作や水利施設など古代の土木技術に造詣が深い工業善通氏は、池田遺跡の発掘調査の結果に注目し、この遺跡が狭山池だけではなく、韓国、中国のため池の技術に共通するものがあることを確認しました。また、県内の那珂川市にある古代の灌漑水路「裂田溝」が『日本書紀』に記載されているこ

となどから、文献史料による調査・研究も併せて実施しました。特に『日本書紀』応神天皇七年の「諸の韓人等を領いて池を作らしむ。因りて、池を名けて韓人池と号ふ」という記述に注目し、池田遺跡がまさに韓人（朝鮮半島から日本に移り住んだ人々・渡来人）によって築かれた「韓人池」の一つである可能性が高く、また、池田遺跡の付近に位置している農業用ため池の「加廊戸池」は日本書紀にみられる「韓人池」の遺称ではないかとの見方をしています。

同じ古代の豊前国に位置する大分県中津市の薦神社は、国内でも珍しく境内にある「三角池」という古代の池が「神体」として祀られています。この池は、池田遺跡と同様に渡来人によって築かれたと伝えられる堤を備えており、さらに宇佐神宮ゆかりの龍神伝説がみられることから、みやこ町周辺が、奈良時代の九州における政治文化の拠点であった宇佐と深い関係であったことを物語っています。



狭山池と狭山池博物館（手前の建物） (写真提供：狭山池博物館)

ことは、大変興味深いことです。「池田遺跡」からみえてきたこと これらの研究成果から、この池田遺跡が、韓国など渡来系の人々がかつ当時の技術の粋を結集して築かれた国内でも稀な遺跡であることが判明しました。また併せて甲塚方墳、綾塚橋塚古墳などの天皇陵級の古墳をはじめとに集中する一つの「謎」を解明する上で重要な発見にもなりました。池田遺跡の調査結果によって、これまで考えられてきた奈良時代のみやこ町の通説が覆され、1300年ほど前、この町が、より一層政治・文化的な、文字通りの「みやこ」であったことを裏付ける重要な根拠を提示することが可能になったのではないのでしょうか？ 今後の調査研究が期待されます。 (井上信隆)